

水稻の生育状況（7月15日現在）と栽培上の留意点について

発信日：2026年7月17日

1 生育状況

7月15日現在の水稻の生育状況は、平年値*と比べて、表1のとおりです。

表1 水稻の生育状況（7月15日現在）

品種	移植時期	草丈	茎数	葉色
はるみ	6月上旬	平年並み	平年並み	やや濃い
	6月中旬	やや低い	多い	平年並み
にじのきらめき	6月上旬	低い	少ない	濃い
	6月中旬	低い	多い	やや濃い
てんこもり	6月上旬	低い	平年並み	平年並み
	6月中旬	やや低い	多い	やや薄い

* ‘はるみ’ 2016～2025年までの過去10年平均 ‘にじのきらめき’ 2025年の値
‘てんこもり’ 2018～2025年までの過去8年平均 との対比

2 栽培上の留意点

気象庁が7月16日に発表した1か月予報（7月18日～8月17日）では、気温は「高い」、降水量は「ほぼ平年並」、日照時間は「ほぼ平年並」の見込みとなっています。今後の栽培管理については、次の点に留意してください。

（1）水稻の生育状況

7月15日現在の水稻の生育状況は、平年と比較して草丈がやや低い、茎数が平年並みからやや多い、葉色がやや濃いでした。出穂期は、現時点の生育と今後の気象予報から平年並みと予想されます。※ 出穂期の目安は表3を参照

（2）追肥

追肥は、稲の生育調整と後期の生育維持のために行います。追肥時期は出穂期を基準に判断し、施用量は水稻の品種や生育状況、天候や水田の特性により調整してください。標準的な追肥時期及び施用量は表2のとおりです。

表2 追肥時期・量の目安

品種	追肥時期目安 (出穂期*を基準)	追肥量目安 (窒素成分/10a)	化学肥料17-0-17 換算の場合
はるみ	15日前頃	2kg	12kg
にじのきらめき	20～15日前頃	3kg	18kg
てんこもり	20日前頃	3kg	18kg

※ 基肥に緩効性肥料（てまいらず和 等）を使用した場合は、基本的に不要です。

※ 生育状況や気象条件により、追肥時期や追肥量を調整してください。

(3) 水管理

穂ばらみ期から登熟初期（出穂 15 日前から出穂 10 日後）までの期間は、稲が最も水を必要とする時期なので、水を切らさないようにしてください。

(4) 斑点米カメムシ類の対策（図 1）

斑点米カメムシ類は水田内および周辺の雑草で増殖し、出穂期以降に粃を吸汁して斑点米を発生させ、品質低下の要因となります。また、一部のカメムシ類は不稔を引き起こし、減収の原因になります。日頃から、水田周辺や水田内の除草管理を徹底しましょう。特に、周囲よりも出穂が早い場合は、注意しましょう。

県内の病害虫発生状況、農薬の適正使用については下記リンクをご参照ください。

出穂10日前

出穂始め

出穂 7～10日後

地域一斉に イネカメムシ発生状況を確認

薬剤散布、

畦畔除草!! 発生状況に応じて薬剤散布!! 地域一斉防除で効果増!!



図 1 斑点米カメムシ類の対策

(5) イネカメムシの侵入に注意(図 2)

イネカメムシは、斑点米の発生による品質低下、不稔による減収を引き起こします。特に不稔は出穂直後～乳熟期に加害されると発生率が高まります。

そのため、イネカメムシが発生する場合は、出穂始め（不稔対策）と出穂 7～10 日後（斑点米対策）に防除を行ってください。

また、発生地域が拡大傾向にあるので、昨年発生が見られなかった水田でも注意してください。



図 2 イネカメムシ

(6) 特定外来生物「ナガエツルノゲイトウ」の対策(図 3)

南米原産の多年生雑草で、相模川水系におけるほとんどの市町の水田で侵入を確認しています。定着すると根絶が困難で水稻に被害をもたらすため、早期発見・防除が重要です。

水田に疑わしい雑草が見られた際は、最寄りの JA または農業技術センターにご連絡ください。

対策方法の詳細は、下記リンクをご参照ください。



図 3 ナガエツルノゲイトウ

(7) 熱中症対策

農作業中の熱中症に注意してください。熱中症の予防には日中の気温が高い時間帯を避けて作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等の工夫を行いましょう。対策方法の詳細は、下記リンクをご参照ください。

【参考】

表3 神奈川県農業技術センター（平塚市）における平年値*

作期	品種名	幼穂形成始期	出穂期
6 月 上 旬 植	はるみ	7月15日頃	8月9日
	にじのきらめき	7月11日頃	2025 年の出穂日 8月5日
	てんこもり	7月20日頃	8月14日
6 月 中 旬 植	はるみ	7月21日頃	8月15日
	にじのきらめき	7月18日頃	2025 年の出穂日 8月12日
	てんこもり	7月24日頃	8月18日

* ‘はるみ’ 2016～2025 年までの過去 10 年平均 ‘にじのきらめき’ 2025 年の値

‘てんこもり’ 2018～2025 年までの過去 8 年平均

幼穂形成期以降の水不足（出穂 25 日前頃～）は、玄米外観品質や収量の低下に繋がります。

No.	参照内容		QRコード
1	病虫害防除対策	農業技術センター病虫害防除部 「令和8年度病虫害発生予察情報」	
2	農薬の適正使用	農業技術センター病虫害防除部 「令和8年度防除情報(病虫害情報 号外 第5号) 令和8年度農薬危害防止運動」	
3	ナガエツルノゲイトウ	農研機構 HP 「水田におけるナガエツルノゲイトウ防除マニュアル」	
4	熱中症対策	農林水産省 HP 「熱中症対策パンフレット&熱中症対策関連情報集」	

問合せ先
神奈川県農業技術センター
普及指導部 作物加工課
TEL : 0463-58-0333 内線381～384